

宣言の力

今日も、宣言して始めましょう。そのあと、宣言というテーマについて学び、多くの宣言をして締めくりたいと思います。妻と私は常にこの方法で奉仕を始めます。神は私たちに宣言することを教えてくださり、集会の初めに信仰によってみことばを宣言して始めることは、集会やメッセンジャーの油注ぎと環境に大きな違いをもたらすことを発見しました。私の好きな宣言の一つであるイザヤ 55:10-11 を宣言しましょう。私たちはラジオのミニストリーと世界中での奉仕においてこのみことばを頻繁に用いています。

「雨や雪が天から降ってもとに戻らず、必ず地を潤し、それに物を生えさせ、芽を出させ、種蒔く者には種を与え、食べる者にはパンを与える。そのように、わたしの口から出るわたしのことばも、むなしく、わたしのところに帰っては来ない。必ず、わたしの望む事を成し遂げ、わたしの言い送った事を成功させる。」

さて、宣言、または宣言するということばについて少し説明させてください。実は、それは、「前に叫ぶ」というラテン語から来ており、それはとても強い言葉で、告白する、あるいは宣言するという新約聖書の2つの言語に関連しています。告白するとは、同じことを言うという意味です。私たち聖書を信じる者にとって、告白とは、神が聖書ですでに言っておられるのと同じことを、私たちの口で言うということなのです。神のことばに同意して、私たちの口のことばとさせるのです。そのような方法で、私たちはイエスの完全な保証と権威を受けるために、みことばと自分自身を同一線上におきます。ヘブル 3:1 で著者はこう言っています。

「…私たちの告白する…大祭司であるイエスの…」

これは非常に重要なことです。もし、あなたが告白をしないなら、あなたには大祭司はいません。イエスは私たちの告白における、私たちの大祭司です。言い換えれば、イエスを信じる者として、聖書が私たちについて語っていることを私たちが告白するときにはいつでも、私たちには、天において権威と祝福を解放する大祭司イエスがいるということです。しかし、もし私たちが沈黙を守るなら、ある意味において私たちは大祭司としてのイエスの働きを閉め出してしまうこととなります。そして、私たちが間違った告白をすることは、もっと悪いことです。それは、私たちが否定的な力を私たちの周りに、私たちの上に、招き入れるようなものです。

いわば告白とは、攻撃的なもので、宣言は、霊的戦いのことばと言えます。神のことばの権威を、自分の生活の中、教会生活の中、政治的状況の中など、さまざまな状況の中へ解放することです。神の力を解放する必要がある、数えきれないほど様々な状況があります。あなた自身の生活やあなたの家族、あなたの教会、あなたの国など、なんであれ、その状況の中に神の力を解放する効果的な方法は、宣言以上にはありません。宣言は実にお触れ役の活動です。お触れ役は、今日ほとんど使われなくなりましたが、重要な特定の地域に行った王や公爵または貴族からの承認を得た信頼のおける人で、統治者の意志や決定をその特定の地域で宣言しました。

新約聖書では、ほとんどの訳ではそれは出てきませんが、「宣べ伝える」という言葉は、お触れという言葉です。それは、宣言という意味です。マタイ 24:14 は、私の好きなみことばの一つです。

「この御国の福音は全世界に宣べ伝えられ・・・」

しかし、私はこのように言い換えたいです。

「この御国の福音は全世界に宣言され、すべての国民にあかしされ、それから、終わりの日が来ます。」

私は 50 年ほど聖書の教師をしていますが、私の役割は、人々が聖書を理解することができるように聖書を解説、説明することであると常に感じています。しかし、12 年ほど前、私は主からみことばの宣言の重要性を認識させられ始めました。主は、教えることを超えて、宣言をするというチャレンジをされているのではないかと私は感じたのです。その結果、私のラジオでの聖書の学びのミニストリーは 1979 年にアメリカの 8 局から始まり、現在それは 10 の言語で世界のほとんどの地域をカバーしています。それはまさに、宣言のミニストリーです。私をかき立てるカギとなるみことばは、マタイ 24:14 です。

「この御国の福音は全世界に宣言され、すべての国民にあかしされ、それから、終わりの日が来ます。」

イエス・キリストの教会として、私たちがその働きを終えるまでは、この時代は終わらないと私は理解するようになりました。それは、すべての国々へのあかしとして、世界中にこの福音を宣言することです。そして、信仰による単純な宣言の、とてつもない力を私は経験によって学びました。それはとても素晴らしいことの成就です。

すべてがクリスチャンの標準から全くかけ離れた一人の女性がアメリカにいました。彼女はマルクス主義者であり、同性愛者であり、男女平等主義者でした。彼女はそれらを真剣にとらえていました。つまり、男性たちを殺すための拳銃を買いました。そして、何らかの理由で彼女は悪い仲間たちと南シナ海を小さな船に乗っており、どこかで悪を働くことを企んでいました。嵐が迫っているようだったので、他の人たちが、「下へ行ってラジオをつけて天候をチェックしてくるように。」と言いました。彼女がラジオをつけると、フィリピンのマニラからの私の宣言のプログラムに出会い、彼女はその船底で救われました。それは、15 分の番組でしたので、彼女の救いには 15 分もかからなかったということです。彼女は現在、悪人だったときと極端なほど、別人になりました。

これはほんの一例です。その番組は教えではなく、私は多くの説明もしませんでした。みことばの宣言の働きによるものです。

さて、神がモーセにエジプトに戻って、イスラエルの民をエジプトから脱出させる解放者と呼ばれた例を取り上げたいと思います。出エジプト 3-4 章で神が燃える柴の中からモーセに現れ、「さあ、イスラエル人をエジプトから連れ出すためにあなたを遣わす。」と言いました。モーセは 40 歳にしてすべての自信を失いました。80 歳になっても自分を頼ることはできませんでした。モーセは言いました。「主よ、なぜ私なのですか。私にはできません。私には何もありません。何をもちてしてそのようなことができるのでしょうか。」すると、主はいつものように具体的に答えられました。「あなたの手にあるそれは何か。」モーセはそれを見て。「杖です。」と答えました。それは、中東の羊飼いたちがみな持っている物でした。モーセは自分の杖を特に重要だと考えていませんでした。しかし、主は言われました。「それを地に投げよ。」彼がそのようにすると、杖は蛇になりました。モーセはそれから身を引きました。つまり、モーセが手にし

ていた杖には、彼が想像もしたことがなかった可能性があったのです。

それから主は言われました。「その尾をつかめ。」蛇を扱う人はその尾を持ち上げることが厳禁であることを知っています。しかし、モーセはその通りにしました。きっと恐る恐るだったでしょう。するとそれは、彼の手の中で杖に戻りました。神が言ったとおりになり、神はモーセに言いました。「さあ、あなたの杖を持って行け。それがあなたに必要なすべてである。あなたは一本の杖ですべてのを行なうことができる。」出エジプト記の残りの部分を分析してみると、エジプトからイスラエルの民を救い出すすべてのことは、その杖によって成し遂げられました。モーセが神に介入してほしいと願ったあらゆる場面において、彼は自分の杖を伸ばし、神が介入していただきました。ある意味、モーセは手にしていた杖によって、結果的にパロからエジプトの支配をもぎ取ったと言えるでしょう。

そして最後の場面は、紅海を渡る時です。水が分けられるために、モーセが杖を伸ばすと、水が二つに分かれました。エジプト人たちがイスラエル人たちを追って水の中に来たとき、モーセが再び杖を伸ばすと、水は元に戻り、エジプト人はおぼれてしまいました。ですから、神がモーセを召したすべての働きに必要な唯一の道具は、一人の羊飼いの杖で、それは、モーセが最初に手にしたときには重要だとは考えてもいなかったものでした。

聖書を信じ、クリスチャンとして生きていらっしゃるみなさんに言いたいことは、あなたは杖を持っているということです。それが何だかわかりますか。それは聖書です。今、手元に聖書があるなら、それを掲げてください。そしてこのように言ってください。「これは私の杖です。この聖書によって、神が私に言われることすべてのことを行なうことができます。」言い終えたら、聖書を置いてください。

みことばから知る必要のあることはまず、神のことばの力です。私たちは、聖書が超自然的な本であることを理解しなければなりません。まさに、モーセの杖のように、その力は実に無限です。神のことばを啓示しているいくつかの聖句を紹介しましょう。詩篇 33:6。

「主のことばによって、天は造られた。天の万象もすべて、御口のいぶきによって。」

「いぶき」と訳されているヘブル語は、通常「霊」である *Ruach* という単語です。つまり、すべての創造は、神のことばと神の霊という2つのものによって起こりました。今あるもの、今までにあったもの、のちに存在するものすべてが、神のことばと神の霊がともに働くというこの2つの力によってのみ始まっています。

このように、ことばは霊とともに働かなければなりません。ですから、詩篇の作者は、それを霊ではなく、いぶきと訳したのではないかと私は思います。私は、アフリカ人に第二言語として英語を教えていたとき、私自身が基本的な音声学を学ばなければならませんでした。私はことばについて、興味深いことを発見しました。みなさんは言葉の測り知れない力と、それらがあまりにも単純であることに気づいていらっしゃるでしょうか。あなたはどのように話しますか。肺から息を解放し、口あるいは鼻を通して、その口や鼻の様々な作用によって、出てくることばが決定します。しかし、基本的な真理は、息をすることなく、話すことはできないということです。話すためには、息をしなくてはなりません。そしてこれは、神のイメージですが、神が話される時は常に、神のことばに神の息が伴います。神の息は、神の霊です。ですから、神のことばと神の霊は常にともにあります。神のことばと霊は、宇宙の中にいのちをもたらし、それらが宇宙

を支えています。Ⅱペテロ3章は、非常に力強いみことばで、ことばが創造し、ことばがそれを保ち、ことばが滅びに至らせるという3つのことを教えています。Ⅱペテロ3:5-7です。

「こう言い張る彼らは、次のことを見落としています。すなわち、天は古い昔からあり、地は神のことばによって水から出て、水によって成ったのであって、当時の世界は、その水により、洪水におおわれて滅びました。しかし、今の天と地は、同じみことばによって、火に焼かれるためにとっておかれ、不敬虔な者どものさばきと滅びとの日まで、保たれているのです。」

このように、天の神のことばにより、地はいのちをもたらされ、神のことばによってそれが保たれています。そして、神の時がくると、神のことばによって、それらは過ぎ去ります。神のことばが創造し、保ち、消し去るのです。

私は人間がこの地上にもたらず混乱を見る時、神のことばがいつかその混乱を消し去ってくれることを喜びに思うことがあります。神のことばはいのちを与え、保ち、消し去るのです。それらはすべて、神のことばによって成されます。

さて、最初に分かち合ったみことばをもう一度取り上げましょう。イザヤ55:10-11は今私が説明した、ことばが神の口から出るものでなければならぬことを言っています。神の口から出るものでなければ、ことばには何の効果もありません。

「雨や雪が天から降ってもとに戻らず、必ず地を潤し、それに物を生えさせ、芽を出させ、種蒔く者には種を与え、食べる者にはパンを与える。そのように、わたしの口から出るわたしのことばも、むなく、わたしのところに帰っては来ない。必ず、わたしの望む事を成し遂げ、わたしの言い送った事を成功させる。」

神は、ここで「わたしの口から出るわたしのことば」と言っています。言い換えれば、「私の息によって押し出される私のことば」です。Ⅱコリント3:6でパウロは言っています。

「…文字は殺し…」

つまり、息のない、空しいことばはいのちをもたらしません。言葉と霊は対でなければならぬのです。ですから、どんなみことばであっても、それに息がなければ、いのちを与えない、死をもたらす渴いたメッセージを聞くこともあり得るのです。言葉と霊が一緒に働かなければならぬのです。

さて、宣言することによって、私たちが神のことばを効果的にさせる方法を、モーセの経験と比較してみましょう。みことばの宣言は、ある状況の中にそのみことばを解放することです。それには、自信と大胆さが必要です。臆病であってははいけません。私はそれを信じるのだ、という決断をしなければなりません。それが神のことばであり、それを言う時に心で信じ、信じる唇によって、神の霊が私を通して発せられる時、神ご自身が言っているかのように効果的なものとなります。それを信じますか。あなたの口を通して神のことばが神の霊を駆り立てるなら、それは神が語って、すべてのものにいのちをもたらした時のように効果的になります。

最初モーセにそれが起こった時、彼はおののきました。彼が杖を投げてそれが蛇になった時、後ずさりしました。宣言が効果的となる前に、私たちは神のことばにおののくことを学ばなければなりません。神のことばにおののくことを学ぶ必要があります。イザヤはこのように、あるいは神がイザヤを通して言われました。イザヤ66:1-2です。

「主はこう仰せられる。『天はわたしの王座、地はわたしの足台。わたしのために、あなたがたの建てる家は、いったいどこにあるのか。わたしのいこいの場は、いったいどこにあるのか。これらすべては、わたしの手が造ったもの、これらすべてはわたしのものだ。——主の御告げ——』」

つまり主はこう言っているのです。「あなたがいかなる宮も建物を建てても、私は心動かされない。なぜなら、私は全宇宙を建てたからだ。」しかし、神はこうも言っておられます。「たったひとつ、私の心を惹くものがある。」それは、

「わたしが目を留める者は…」

別の訳では、「わたしが顧みる者は…」となっています。神が顧みてくださる人とはどんな人でしょうか。

「…へりくだって心砕かれ、わたしのことばにおののく者だ。」

そう、モーセのように、神のことばへの私たちの最初の反応は恐れと畏怖でなければなりません。今日の教会では、神のことばを恐れているにはほど遠いです。私たちはみことばになじんでおり、それを用い、引用しますが、みことばへの本当の敬意を表わしてはいません。私たちはそのような態度を改めなければなりません。

神のことばにおののくべきであるという2つの理由が、ヨハネの福音書に見られますので、見てみましょう。最初に、ヨハネ 12:47-48 です。イエスが語っておられます。

「だれかが、わたしの言うことを聞いてそれを守らなくても、わたしはその人をさばきません。わたしは世をさばくために来たのではなく、世を救うために来たからです。わたしを拒み、わたしの言うことを受け入れない者には、その人をさばくものがあります。わたしが話したことばが、終わりの日にその人をさばくのです。」

イエスは、ご自分はあなたをさばく者ではないと言っているのです。あなたは神のことばによってさばかれます。これは、やがて私たちすべてにやって来ることだと私は信じていますが、全能の神の御前に立って、あなたの人生の弁明をしているところを想像してみてください。あなたはおののき、答える言葉にとっても注意するでしょう。イエスが言っておられるのは、神のことばに対しても同じ態度であるべきだということです。神のことばがあなたをさばくことになるからです。このみことばの書を開いて読むときは常に、もしその言葉を理解し、やがて私たちをさばくことになるものだと見なすなら、みことばにおののくことは当然です。

さらに、ヨハネ 14:23 でイエスはもう一つの驚くべきことを言っています。

「だれでもわたしを愛する人は、わたしのことばを守ります。そうすれば、わたしの父はその人を愛し、わたしたちは

その人のところに来て、その人とともに住みます。」

これは、神について複数形が用いられている聖書の中でも、数少ない箇所の一つです。わたしたち、すなわち父と御子はその人のところに来ます。どのように来るのでしょうか。何を通してでしょうか。神のことばを通してです。つまり、もし私たちがみことばを開いてそれを信じ、父と御子なる神ご自身を信じるなら、神のことばに開かれているなら、私たちとともにご自身の住まいを築きたいと願って、私たちの人生の中に来てくださるのです。それがビジョンであっても、主イエスがあなたの家の中に来るということを見るならば、あなたは圧倒されるでしょう。畏怖の念が起こるでしょう。イエスの足もとにひれ伏したくなるでしょう。イエスは言われます。「わたしだけではなく、父も来られます。」何を通してですか。神のことばを通してです。お分かりですか。

私は、現代の教会にいる私たちのほとんどが、神のことばに対する態度を改めなければならないと言わざるを得ません。私たちは、敬意と畏怖、恐れを表わす必要があります。私が言っているのは、私たちが神のことばに敬意を払うことを学ぶまでは、神のことばは私たちの人生に効果的なものとはならないということです。

神のことばにおののくということこそが、モーセに最初に起こったことでした。モーセは、杖に力があることに突然気づき、それから身を引きました。畏敬の念に打たれたからです。

次にモーセがしたことは、その杖を取ったことでした。信仰によってそれをつかみ、それは彼の手中で杖に戻りました。私たちはおののくとき、神のことばを握る必要があります。詩篇にとっても印象的な箇所があります。詩篇 149 の5節からです。

「聖徒たちは栄光の中で喜び勇め。おのれの床の上で、高らかに歌え。」

聖徒たちとは、すべての真に献身した信者であると私は信じます。聖徒という言葉は、ヘブル語では、hasid です。超正統派ユダヤ教です。それは、神のことばにおののく者という意味で、みことばに完全に献身した人のことです。

「聖徒たちは栄光の中で喜び勇め。おのれの床の上で、高らかに歌え。彼らの口には、神への称賛、彼らの手には、もろ刃の剣があるように。それは国々に復讐し、国民を懲らすため、また、鎖で彼らの王たちを、鉄のかせで彼らの貴族たちを縛るため。また書きしるされたさばきを彼らの間で行うため。それは、すべての聖徒の誉れである。」

もし、あなたが聖徒に属する者であると自分自身を見るなら、それはとても素晴らしいことばの連続です。私たちは手に神のことばであるもろ刃の剣、私たちの口には神への称賛がなければならず、それによって私たちは国々に対する復讐を実行することができ、国民を懲らしめることができます。そのシナリオをあなた自身に見ることができますか。これが、神があなたに対して持っておられることだと認識していますか。鎖で彼らの王たちを、鉄のかせで彼らの貴族を縛るためです。国々を支配するサタンの支配権は、一部ではなく、独占的であると私は信じます。

書きしるされたさばきを彼ら、すなわち国々の間で行なうためと最後の節で言っています。また、それは、すべての

聖徒の誉れであると言っています。これについて考えたことがありますか。神は国々にさばきを行なう特権を私たちに与えられました。このように、その光で私たち自身を見始めるなら、私たちの多くの祈りの生活は変えられるでしょう。書きしるされたさばきを行なうと言っています。書きしるされたさばきとは、どこにありますか。そう、それは聖書の中です。私たちがさばきを定めるわけではありません。神がさばきを定めましたが、私たちは国々に、支配者たちにさばきを行なう特権があるのです。つまり、私たちには、歴史的に独特で決定的な役割があるのです。これがどれほど重要であるかお分かりですか。そして、あまりにも多くのクリスチャンが、神が私たちにくださっているものすべて、また私たちに期待しておられるすべてのことを理解し始めることからさえ、程遠いものであるかと言わなければなりません。

私たちがさばきを定めるのではないことを強調したいと思います。さばきは神のことばに書きしるされていますが、それを行なうのは私たちです。私たちはどのようにして神のさばきを行なうのでしょうか。一言で言うと？ そう、宣言です。すでにみことばに書かれている神のさばきを私たちは解放するのです。私たちがさばきを宣言します。私たちはお触れ役です。世界の街角に立ち、神の命令を告げ知らせるのです。

私は、非常に实际的で現実的に行ないたいと思います。杖を握った後の次の段階です。モーセはエジプトに戻って次に行なったことは何ですか。その杖を伸ばしました。モーセは杖にあった権威を用いたのです。同じことを行なう必要があることをみなさんに提案したいと思います。書かれた神のことばを取り、神の権威が必要とされるあらゆる状況においてそれを伸ばす必要があります。そして、これが唯一の方法ではなく、一つの方法ですが、ある状況の中に神の権威を解放する最も効果的な方法は、信仰を宣言し、聖霊の油注ぎのもとにあることです。なぜなら、ことばは息とともに行かなければならないからです。しかし、その2つがともに行くと、神の霊である神の息が私たちの口から神のことばを押し出させ、私たちは状況の中にさばきを解放することができ、その状況に全能の神のすべての権威を持たせます。

神は御座から降りて、モーセの手にある杖を取って、「モーセよ、わたしがそれをする。」とは言いませんでした。それは、ほとんどの人が起こってほしいと期待することではないでしょうか。神は言われます。「あなたには杖がある。それで行ないなさい。」しかし、それは出エジプト記の神の杖と呼ばれます。神の杖ですが、モーセが持っていました。モーセはそれを伸ばしました。モーセとアロンは一緒でした。モーセかアロンであるかは重要ではありませんでした。その仕事をしたのは、杖だったからです。

では、これから可能性のある状況をいろいろと取り上げます。まったく個人的な状況から始め、国家的、国際的な状況に移り、私たちが杖を伸ばすことができる様々な方法を紹介したいと思います。今から行なうすべての宣言は、私たちの個人的なデボーションで定期的にする宣言です。みなさんに言いますが、私たちの個人的なデボーションは、いつも静かな時間であるとは限りません。時に私たちは叫びます。結局のところ、宣言は叫ぶことです。叫ぶことにさらに力があるとは言いません。単に聖霊がどのようにあなたに促すか次第です。私たちが定期的に行なっている宣言はおそらく100から200ぐらいあります。そして、妻が病気と闘っていたとき、それは、私たちの最大の武器でした。これらの宣言のうちいくつかは、私たちが何千回もしてきたものです。

あなたの背景と否定的な影響によって、あなたが否定的な考え方を持っているなら、一度の宣言ではあまり変化はありません。あなたがそれを考えるまで言い続けなければなりません。状況がいつ起こるかは、あなたの反応次第

です。

私はイギリスの背景から来ています。私は、イギリス人はとても否定的な傾向があると思います。彼らは本来、悲観論者です。私も悲観論者の一人でした。神は私に徐々に革命をもたらし、それは長い間かかりました。しかし、私の妙な精神的習慣の1つは、幼少時代にさかのぼらなければなりません。私はある状況において、自動的にあらゆるトラブルが起こりうる、あらゆる問題が起こりうると思え始めるのです。私は車を運転していて、事故などが起こるのではと考えてしまいます。みなさんの中には同じ問題を抱えた人がいらっしゃるでしょう。そして、私は様々な方法でことばの武器を使っていましたが、一つのみことばを紹介します。エレミヤ 29 章で、主はイスラエルにこう言っています。

「わたしはあなたがたのために立てている計画をよく知っているからだ。——主の御告げ——それはわざわざいではなくて、平安を与える計画であり、あなたがたに将来と希望を与えるためのものだ。」

別の翻訳では、「平安を与える」のぶぶんが、「繁栄の計画」となっています。

ですから、私自身、何らかの否定的な災難を思い描き始めようとするときは常に、こう言います。「主よ、あなたのために立てておられる計画があることを感謝します。それは、悪い計画ではなく、良い計画であり、災いではなく、繁栄、将来と希望を与える計画です。」それを何度か言わなければなりません。しかし、最後には否定的な思いは去って行きます。そして、私は強さ、自信、肯定的な態度を持ちます。主は言われます。

「わたしはあなたがたのために立てている計画をよく知っているからだ。——主の御告げ——それはわざわざいではなくて、平安を与える計画であり、あなたがたに将来と希望を与えるためのものだ。」

あなたは、外出する時にいつも、それを言い始めてください。あなたには素晴らしい一日を送るでしょう。しようと思っていることを成し遂げるでしょう。あなたの態度は大きな違いをもたらします。人々のあなたへの接し方にも違いをもたらします。肯定的な態度でお店に入っていくと、店員は何かをしてくれるでしょう。もしあなたが問題が起こるのでは、とか悪い対応をされるのではないかと思って店に入っていくなら、おそらくそのようになってしまうでしょう。お分かりですか。

少し話がそれましたが、宣言のいくつかのパターンを紹介しましょう。しかし、何よりもそれは、ことばを伴った息でなければなりません。つまり、それは聖霊でなければならないのです。そして次に、その宣言を個人的なものとするのが良いと思います。ですから、聖書が「あなたがた」と言っている箇所を、「私たち」と言い換えます。今ここで、それを適用して言います。私たちは攻撃を受けるときに起こす自己防衛をするところから始めます。この残りの時間をすべてそのことに費やすこともできますが、必要の領域に入ることは少しうんざりしています。あまりにも多くのクリスチャンが、決して自分の必要の枠を越えようとしません。ですから、簡単に必要の領域をやった後、続けて私が攻撃と呼んでいる領域である、自己防衛ではなく、攻撃する領域に移りたいと思います。

では、あなたが多くの暗い否定的な予感を持っているとしましょう。あなたは、もし自分が死んだらどうなるかについて考え続けているとします。実は、多くの人々がそのような考え方をしています。今、これを聞いている方の中にもそ

のような人がいらっしゃるでしょう。私の妻もかつてこう言われましたが、あなたは医者から告げられました。「この状態を乗り越えられるという保証はできません。私たちは最善を尽くします。」ここに、何千回も用いなければならないみことばがあります。妻はベッドにただ横たわってこれを言うのが精いっぱいでした。詩篇 118:17 を読みます。

「私は死ぬことなく、かえって生き、そして主のみわざを語り告げよう。」

それを言いましょ。覚えるのは簡単です。では言いましょ。「私は死ぬことなく、かえって生き、そして主のみわざを語り告げよう。」もう一度。「私は死ぬことなく、かえって生き、そして主のみわざを語り告げよう。」

さて、あなたが確かに大胆であるかどうかを見るためにできる一つのことは、誰かに向かって言うことです。「私は死ぬことなく、かえって生きる。」それには、ユダヤ人が厚かましき、凶太さと呼ぶものが必要でしょう。「私は死ぬことなく、かえって生き、そして主のみわざを語り告げよう。」アーメン。少し、すっきりしましたか。

それがあなたにも起こるべきだと考えてください。つまり、説教者は特にこれを目指しているのです、多くの人々があなたを非難し、あなたに敵対して語ります。あなたに敵対して祈っている人もいます。その時、あなたはどうしますか。その解決法はイザヤ54:17です。聖書を開いてください。

「私たちを攻めるために作られる武器は、どれも役に立たなくなる。また、さばきの時、私たちを責めたてるどんな舌でも、私たちはそれを罪に定める。これが、主のしもべたちの受け継ぐ分、わたしから受ける彼らの義である。
——主の御告げ——」

その箇所が見つかりましたか。あなたは、それをどのように個人的なものとしめますか。もはや隠されてはおらず、世界中のすべての人が遅かれ早かれ知ることになるので、秘訣とは言えませんが、その秘訣は寝る前に毎晩それを言うことです。いいですか。

「私たちを攻めるために作られる武器は、どれも役に立たなくなる。また、さばきの時、私たちを責めたてるどんな舌でも、私たちはそれを罪に定める。これが、主のしもべたちの受け継ぐ分、わたしから受ける彼らの義である。
——主の御告げ——」

彼らが神の義を非難しているので、私たちを責めたてる舌を、私たちは罪に定めることができます。お分かりですか。それは常に敗北しています。

私たちに敵対して語ったり、祈ったり、あるいは私たちに危害を加えたり悪を計ろうとしている人たちがいるなら、私たちはそれを言ったあと、まさに記録を消すように私たちは彼らを赦し、主の御名によって彼らを祝福します。聖書が、人があなたがたをのろうなら、彼らをのろい返さず、祝福しなさいと言っているのです、このように私たちは肯定的なものと否定的なものを置き換えるのです。パウロは、「悪に負けてはいけません。かえって、善をもって悪に打ち勝ちなさい」と言っています。悪に打ち勝つ唯一の力は善です。ですから、私たちは否定的なものに出会ったときに肯定的なもので打ち勝つことを学ばなければなりません。しかし、このことばに基づいていなければなりません。

私たちのミニストリーが攻撃されるかもしれません。あるいは、私たちの家庭や家族が攻撃されるかもしれません。私たちが、とてもよく知っているみことばがあります。申命記33:25－27です。

「私たちのかんぬきが、鉄と青銅であり、私たちの力が、私たちの生きるかぎり続くように。
エシュルンよ。神に並ぶ者はほかにない。神は私たちを助けるため天に乗り、威光のうちに雲に乗られる。
昔よりの神は、住む家。永遠の腕が下に。私たちの前から敵を追い払い、『根絶やしにせよ』と命じた。」

アーメン。それは実にサタンを脅かすものだ、私は言います。私たちはサタンを滅ぼさなければならないことを学んできました。神はサタンを追い出し、あなたはサタンを滅ぼさなければなりません。あなたの脚で敵の首を踏みつけなければなりません。そのことについて詳しくは説明しませんが、サタンは血に飢えています。

敵とは、人ではなく、空中の霊的な力について言っていることに注意してください。私たちの敵は血肉ではありません。あなたの牧師はあなたの敵ではなく、あなたの夫もあなたの敵ではありません。時にそう考えることもあるかもしれませんが、違います。私たちは人間に脅かされないことを学ばなければなりません。これらの武器は、とても力強いものですが、正しい形で用いられなければなりません。

さて、あなたに何らかの必要があるとします。そして、それが起こらなければならないとしましょう。経済的、身体的、あるいは癒しなど。私たちはそれぞれに宣言を持っています。まず、Ⅱコリント 9:8 です。

「神は、私たちを、常にすべてのことに満ち足りて、すべての良いわざにあふれる者とするために、あらゆる恵みをあふれるばかり与えることのできる方です。」

お分かりのように、それは3つのシンプルなことばで成り立っています。神は…できる方です。あなたはそれを信じますか。とても重要なことです。神にはできるのです。そして、これは驚くべき聖句です。すべてという言葉が5回、そして、あふれる、満ちるという言葉が2回用いられています。パウロの心をとらえたもの以上に一つの節にそれほど多く入れることは不可能です。それは、恵みです。どのように、何によって恵みを受けるのでしょうか。信仰によってです。そう、信仰により、恵みであなたは救われました。それは私たちが努力して得るのも、私たちの給料によるのでもありません。私たちは神の恵みで信仰によってそれを受け取ります。これは、私たちのミニストリーの経済的基盤と言えるでしょう。経済のために祈る時はいつも、私たちはこの基盤で始めます。すると、肯定的な姿勢になるのです。ではもう一度宣言しましょう。

「神は、私たちを、常にすべてのことに満ち足りて、すべての良いわざにあふれる者とするために、あらゆる恵みをあふれるばかり与えることのできる方です。」

それから、あなたができない、無理だと思っていることにチャレンジするとしましょう。そのチャレンジの内容によりませんが、あなたはそれに必要な能力、あるいは教育、もしくは必要な体力がありません。しかし、神はあなたにそれをチャレンジします。私たちはピリピ 4:13により頼みます。しかし、これは私のバージョンです。私はギリシャ語を知るように

なり、主は私がこれまでに聞いたどのようなバージョンの訳よりも意味を明確にしている、ギリシャ語の実に素晴らしい解釈を与えてくださったと思います。しかし、それは印刷されていません。人々がどこで買えますかと私に聞いてきますが、買うことはできません。

新改訳では、こうです。

「私は、私を強くしてくださる方によって、どんなことでもできるのです。」

私のバージョンではこうなります。

「私は、私に権限を与えてくださる方によってどんなことでもできるのです。」

もう一度言います。

「私は、私に権限を与えてくださる方によってどんなことでもできるのです。」

私は権限という言葉を用いています。なぜなら、ギリシャ語では、通常「力」と訳される *dunamis* だからです。あなたの内にある力の源が、あなたの宣言によって解放されます。「私は、私に権限を与えてくださる方によってどんなことでもできるのです。」私には教育もありません。体力もありません。でも、神のみこころなら、それが神からの与えられた仕事であるなら、内側から私に権限を与えてくださる方がいてくださるのです。

そして、その問題が病気だとしましょう。私たちが好きな宣言の一つが I ペテロ 2:24 です。

「そして自分から十字架の上で、私たちの罪をその身に負われました。それは、私たちが罪を離れ、義のために生きるためです。キリストの打ち傷のゆえに、私たちは、いやされたのです。」

お分かりのように、これは過去形です。あがないの癒しについて語る時、それは決して未来には使っていないのです。イエスが来られる700年前にイザヤは、「彼の打ち傷によって私たちはいやされた」と言いました。十字架の後、それを振り返って、ペテロは「キリストの打ち傷によってあなたがたはいやされた。」と言っています。これはあなたにまったく新しい視点を与えます。それは自動的に病が消え去ることを意味しているのではなく、病気にあってチャレンジを受けることにより、異なる基盤をあなたに与えます。時にあなたは長い間それを言い続けなければなりません。神のことばとあなたの症状のどちらが、より信頼できるかを決断しなければなりません。

私たちはさらに攻撃的な領域に入っていきます。国家的、国際的な情勢に介入について話したいと思います。妻と私は自分たちの必要以外のこと、国々の行く末についての様々な状況のために祈るのに多くの時間を費やします。あなたを励まし、助けるみことばをいくつか紹介します。私たちが大抵締めくりに用いる、好きな宣言の一つで、ダニエル 2:20-22 と 4:34-35 です。最初のことばはダニエルによって語られ、次のことばはネブカデネザルによって語られていますが、そのメッセージは同じです。ダニエル 2:20-22、4:34-35 の抜粋です。

「神の御名はとこしえからとこしえまでほむべきかな。知恵と力は神のもの。神は季節と時を変え、王を廃し、王を立て、知者には知恵を、理性のある者には知識を授けられる。神は、深くて測り知れないことも、隠されていることもあらし、暗黒にあるものを知り、ご自身に光を宿す。その主権は永遠の主権。その国は代々限りなく続く。地に住むものはみな、無きものとみなされる。彼は、天の軍勢も、地に住むものも、みこころのままにあしらう。御

手を差し押さえて、『あなたは何をされるのか』と言う者もない。」

これらのことばが未信者のネブカデネザル王のものであることを考えてください。私は、彼がその頃までには神を信じる者であったと思います。しかし、ちょっとネブカデネザルの人生で神のすばらしい働きについて考えてみましょう。私たちが祈り方を学ぶなら、神は、神を知らない邪悪な支配者を変えることができるということは私たちへの励ましです。

それから、第二歴代誌から2つのみことばを取り上げますが、それぞれ1節ずつで、どちらも祈りです。ですから、私たちが祈る時、例えば中東の情勢やいかなる情勢であれ、特定の祈りをする前に、私たちを前に押し出してくれるこれらの祈りをよくします。第二歴代誌 14:11。

「主よ。力の強い者を助けるのも、力のない者を助けるのも、あなたにあつては変わりはありません。私たちの神、主よ。私たちを助けてください。私たちはあなたに拠り頼み、御名によってこの大軍に当たります。主よ。あなたは私たちの神です。人間にすぎない者に、あなたに並ぶようなことはできないようにしてください。」

もう一つは第二歴代誌 20:6 です。

「私たちの父祖の神、主よ。あなたは天におられる神であり、また、あなたはすべての異邦の王国を支配なさる方ではありませんか。あなたの御手には力があり、勢いがあります。だれも、あなたと対抗してもちこたえうる者はありません。」

アーメン。さて、詩篇 33:8-12 を宣言しましょう。これは、あなたが世界情勢のために祈る時、非常に力強い励ましとなります。

「全地よ。主を恐れよ。世界に住む者よ。みな、主の前におののけ。まことに、主が仰せられると、そのようになり、主が命じられると、それは堅く立つ。主は国々のはかりごとを無効にし、国々の民の計画をむなしくされる。主のはかりごとはとこしえに立ち、御心の計画は代々に至る。幸いなことよ。主をおのれの神とする、その国は。神が、ご自身のものとしてお選びになった、その民は。」

つまり、誰がすべての勝利者となるのですか。主を神とする国です。国々や国連、政府のあらゆるはかりごと、計画は、神のご計画に反するなら、単なるがらくたに過ぎません。

さて、私たちが最も祈る地域の一つ、中東に関することでしめくりたいと思います。あなたはそれほど重荷を感じていらっしゃらないかもしれませんが、原則を理解し、それをあなたの状況に適用してください。まず、中東と北アフリカは、疑いなく地球上で最も福音に堅い地域でしょう。それにはとても重要な理由があり、それは、宣言の力を適用する理由なのです。おそらくあなたはほとんどのムスリムが一日に5回アッラーと預言者ムハンマドに宣言していることをご存知でしょう。もちろん、アッラーは聖書の神ではありません。

さて、ムスリムの暦は西暦 627 年に始まったので、1300 年以上になります。そして、すべてのモスクで 1300 年以上も毎日 5 回宣言がなされてきたのです。ちょっと計算してみましょう。1300 年として日にちに直すと 474,500 日、おおざっぱに、50 万日としましょう。日に 5 回ですから、250 万回以上、すべてのモスクで宣言がなされてきたのです。現在のモスクの数は少なくとも、北アフリカと中東で 50 万はあるでしょうから、何十億回になります。なぜ地球の他の地域以上に、その地域であれほど強力な反キリストの力があるのでしょうか。その原因は何でしょうか。宣言です。否定的であれ、肯定的であれ、宣言の力がわかりでしょう。私たちは、どのようにしてそれらのあらゆる否定的な宣言の力に打ち勝つのでしょうか。何をしなければなりませんか。肯定的な宣言をすることです。

ですから、一つの例を挙げましょう。あなたが望みのない課題だと感じているような場合において、エジプトの魔術師たちがモーセの目の前で彼らの杖を地に投げると、それらが蛇になった時、何が起こりましたか。モーセの蛇はエジプト人たちの蛇を飲み込んでしまいました。そう、つまり私たちがどのように宣言するかを知っているなら、私たちの宣言はあらゆる否定的な宣言に打ち勝つのです。ですから、イスラエルと聖書的に彼らの土地に関して特別な 2 つの宣言をします。最初は詩篇 25:3 です。

「悪の杖が正しい者の地所の上にとどまることなく、正しい者が不正なことに、手を伸ばさないためである。」

この文脈における悪の杖とは何ですか。イスラム教です。正しい者の地所とは何ですか。神の民の地所です。政治家たちが何と言おうと、彼らは何をしようと、悪の杖は正しい者の地所の上にとどまることはないと言っています。

あなたはそれを信仰によって言わなければなりません。あらゆることが正反対に見えていても、その時こそがこれを宣言する時です。その杖を伸ばすと、あなたの蛇が魔術師たちの蛇を飲み込むのです。

そして、詩篇 129:5-6 です。

「シオンを憎む者はみな、恥を受けて、退け。彼らは伸びないうちに枯れる屋根の草のようになれ。」

私はシオンを憎むすべての人に告げます。彼らは決して成熟に達せず、決して完全な背丈に成長しません。彼らは完全に成長する前に枯れてしまいます。それは神のことばで、それは必ず起こります。

最後に、エレミヤ 31 章でイスラエルの回復についてのもう一つの聖句を紹介します。エレミヤ 31:7 です。

「ヤコブのために喜び歌え。国々のかしらのために叫べ。告げ知らせ、賛美して、言え。『主よ。あなたの民を救ってください。イスラエルの残りの者を。』」

歌え、叫べ、告げ知らせ、賛美して、言え(祈れ)、という 5 つのことばがあります。告げ知らせるはその一つで宣言です。そして 10 節。

「主のことばを聞け。遠くの島々に告げ知らせて言え。『イスラエルを散らした者がこれを集め、牧者が群れを飼うように、これを守る』と。」

これが、現在の中東情勢に対して私たちが言うことばです。イスラエルを散らされた神は、イスラエルを集め、牧舎が群れを飼うようにイスラエルを守ります。それを言いましょう。

「イスラエルを散らした者がこれを集め、牧者が群れを飼うように、これを守る。」

聖書が言っていることを行ないましょう。立ち上がり、宣言し、賛美し、叫び、私たち自身の喜びを表しましょう。